

昔むかし壯士をとこと美うるはしき女をみなとあり。二ふたりの親おやに告つげずして、竊ひそかに交けう接せふを為なす。こここゝに娘をとめ子の意こころに、親おやに知しらせまく欲ほりす。因よりて歌うた詠たを作り、その夫つまに送おくり与あたへたる歌うたに曰いはく

三八〇三番

隠こもりのみ 恋こふれば苦くるし 山やまのはゆ 出いで来くる月つきの 顯あらはさばいかに

昔むかし壯士をとこあり、新あらたしく婚こん礼れいを成なす。未いまだ幾いくばく時ときも経へねば、忽たちまちに駅はちま使まつかひとなりて、遠とほき境まかひに遣つかはされぬ。公こう事じは限かぎりあり、会あひこ期ごは日ひなし。こここゝに娘をとめ子こ、感かん動どう樓ろう愴そう、疾やまひ疹しんに沈しづみ臥ふしぬ。翌あした年の後のちに、壯士をとこ還かえり来きたり、覆ふく命めいするこゝと既すでに了きはりぬ。すなはち詣いたり相あひ視みるに、娘をとめ子の姿かほ容ようの、疲ひるい羸いせること甚けや異けくして、言げん語ご哽かう咽えつす。こここゝに壯士をとこ、哀かなし嘆なげびて涙なみだを流ながし、歌うたを裁つくりて口くち号ごうぶ。その歌うた一首

三八〇四番

かくのみに ありけるものを 猪いの名な川がはの 奥おくを深ふかめて 我わが思おもへりける